

船橋市の公民館における平面構成からみた和室の特性

日大生産工(院) ○長 良介 日大生産工 山岸 輝樹
日大生産工 広田 直行

1 研究の背景と目的

公民館は社会教育施設として、地域住民の自主的な生涯学習を推進していくことを基本方針としている。住宅としての和室ではなく、身近な公共施設としての和室は、各施設によって目的別に様々な設置形態がなされている。現在でも、ほとんどの公民館に和室は設置されている。しかし、和室とは、ただ畳が敷かれているだけで他の室との違いを示しているのではなく、床の間や水屋、向きなど畳だけではない伝統的要素や形式が存在する。公共としての和室というものが、どのように利用され、構成されているのかを分析することによって、公共和室としての必要性を示すことが重要だと考える。

本稿では、公民館にある和室の平面構成を平面図から読み取り、主室と付属室（水屋と収納）の規模を明らかにするとともに、公共和室における主室と付属室の構成を類型化し、分析する。

2 研究の対象と方法

研究の対象は、船橋市公民館（中央公民館を除く）25館の和室53事例とする。表1に公民館と和室の概略を示す。

研究の方法は、はじめに各公民館の平面図から和室（畳室も含む）と各構成要素を抽出し、次いで、和室における構成要素と室構成を分類し、類型化する。類型化したものを規模や構成比、配置パターンから分析を行い、公共和室の構成についてまとめる。

3 和室構成の類型化

3.1 和室と各要素の構成

和室の各要素を簡略化し、和室と要素の接続関係についてパターン化したものを図1に示す。

〔舞台〕 和室に舞台が構成されているパターンとしては、53事例中1事例（2%）しかみられな

表1 船橋市公民館一覧

事例番号	公民館名	所在地	設置年	施設面積 (㎡)	室名称	和室面積 (㎡)
1	東部	前原西2-21-21	昭和28年8月1日	1512	第一和室	22.6
					第二和室	25.9
					第三和室	26.2
2	西部	本中山1-6-6	平成20年4月1日	3173	和室	61.0
3	北部	豊富町4番地	平成27年12月1日 予定	1937	和室	51.9
4	夏見	夏見2-29-1	昭和27年4月1日	919	第一和室	45.3
					第二和室	23.5
5	法典	藤原7-34-1	平成26年3月1日	1495	和室1	44.4
					和室2	44.4
6	二和	二和東5-26-1	昭和49年4月1日	1804	第一和室	35.7
					第二和室	38.8
7	三田	田喜野井2-24-2	昭和50年4月1日	853	和室	42.4
8	海老が作	大穴南3-19-1	昭和54年4月1日	998	第一和室	30.1
					第二和室	41.2
9	高根	高根町2885-3	昭和55年4月1日	1032	第一和室	29.1
					第二和室	39.9
					第三和室(茶室)	23.7
10	習志野台	習志野台5-1-1	昭和56年4月1日	1088	第一和室	49.2
					第二和室	32.9
11	小室	小室町3308	昭和56年4月1日	761	第一和室	31.9
					第二和室	31.9
					老人の和室1	35.9
					老人の和室2	35.9
12	浜町	浜町2-1-15	平成26年6月1日	2142	和室(茶室)	50.0
13	八木が谷	八木が谷2-14-6	昭和58年4月1日	1027	老人憩の家	34.5
					第一和室	42.4
14	飯山満	飯山満町1-950-3	昭和59年4月1日	1031	第二和室	42.4
					第一和室	43.7
15	丸山	丸山5-19-6	昭和60年4月1日	1031	第二和室	36.4
					第一和室	32.2
16	塚田	前貝塚町601-1	昭和61年4月1日	1200	第二和室	56.2
					第一和室	24.2
17	宮本	宮本6-18-1	昭和63年4月1日	1642	第二和室	41.5
					第一和室(茶室)	30.7
18	三咲	三咲3-5-10	平成元年4月1日	1290	第二和室	55.4
					第一和室	31.5
					第二和室	52.5
19	新高根	新高根1-12-9	平成2年4月1日	1404	老人憩の家	48.7
					第一和室	58.0
					第二和室	35.6
20	葛飾	西船3-6-25-201	平成2年7月1日	1308	老人憩の家	48.7
					第二和室	40.0
					第一和室	39.5
21	薬円台	薬円台5-18-1	平成3年4月1日	1566	第二和室	36.8
					第一和室	41.6
					老人憩の家	39.6
22	松が丘	松が丘4-32-2	平成5年4月1日	1564	第一和室	38.5
					第二和室	35.8
23	高根台	高根台1-2-5	平成8年4月1日	1981	第一和室	34.6
					第二和室	33.2
24	海神	海神6-3-36	平成12年5月	882	第一和室	38.0
					第二和室	49.6
25	坪井	坪井町1371	平成23年4月	1899	和室	41.9

い。1事例しかみられないことから、他の和室とは違う利用があると考えられる。

Characteristics of “WASHITSU” Indicated by the Planar Structure in Funabashi Kominkan

Ryousuke OSA, Teruki YAMAGISHI and Naoyuki HIROTA

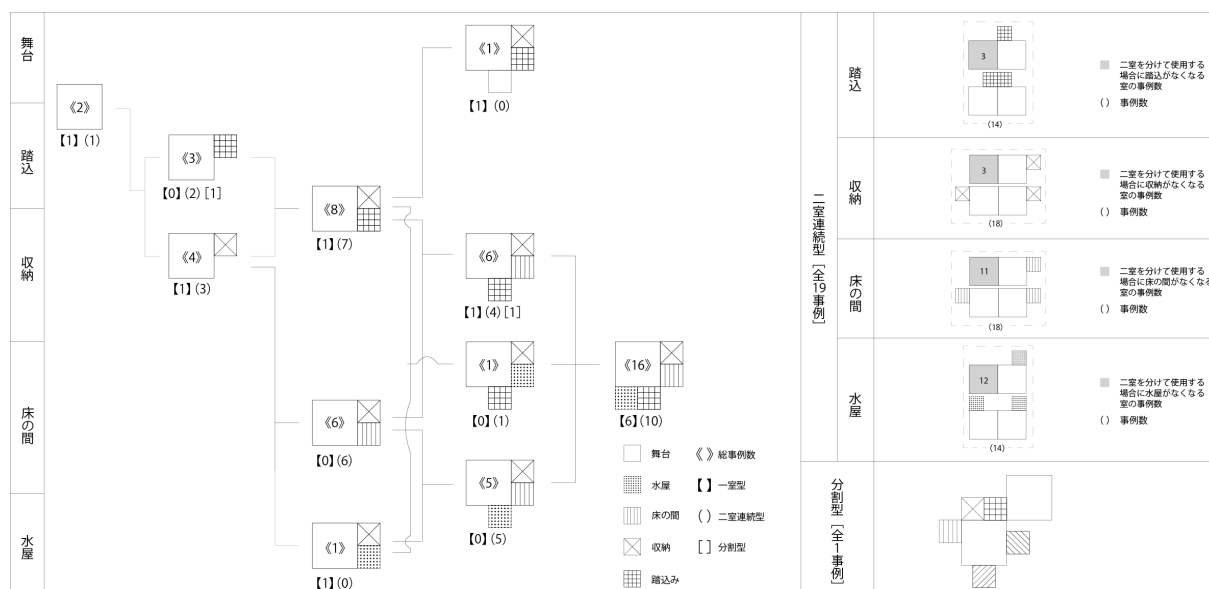


図1 和室の構成パターン

〔踏込〕 和室に踏込が構成されているパターンとしては、53事例中35事例（66%）みられる。

〔収納〕 和室に収納が構成されているパターンとしては、53事例中45事例（85%）とほとんどの場合接続している。収納は、座布団や椅子、和机、サークル活動の備品、活動時の荷物入れなどとして使うため、和室をより多目的な室として構成する要素と考えられる。

〔床の間〕 和室に床の間が構成されているパターンとしては、53事例中33事例（62%）みられる。床の間については、和室を構成する要素のうち最も重要なしつらえのひとつとして考えられるため、平図面にて確認できない和室については、調査し確認する必要がある。

〔水屋〕 和室に水屋が構成されているパターンとしては、53事例中23事例（43%）みられる。その中で、23事例中16事例（70%）が踏込、収納、床の間を構成していることから、水屋が構成される場合は、本格的な和室として設置していると考えられる。

3.2 和室の室構成

〔一室型〕 …独立して配置している和室
一室型の構成は34事例中14事例（41%）みられ、その中で踏込、収納、床の間、水屋の4つを構成しているのが14事例中6事例（43%）と最も多くみられる。

〔二室連続型〕 …二室が連続配置している和室
二室連続型の構成は34事例中19事例（56%）みられ、その中で、一室型と同様に踏込、収納、

床の間、水屋の4つを構成しているのが19事例中10事例（53%）と最も多くみられる。二室のうち、どちらかもしくは両方に床の間が設置されているパターンは19事例中18事例（95%）ある。そのうち一方の和室のみ、床の間が構成されていないのが18事例中11事例（61%）みられる。同じく、どちらかもしくは水屋が設置されているパターンは19事例中14事例（74%）ある。そのうち一方の和室のみ、水屋が構成されていないのが14事例中12事例（86%）みられる。

〔分割型〕 …連続していないが接続されて配置している和室

図1にある分割型として構成しているのが34事例中1事例（3%）のみである。踏込により接続しており、公民館の室構成により特殊なパターンとして配置されていると考えられる。

4 和室に関する規模と構成比

4.1 主室と付属室の規模

建設年と和室面積の関係を図2に示す。和室面積は、建設年が新しくなるにつれて大きくなる傾向がみられる。さらに、図3より付属室面積は建設年に対し一定であるが、主室面積は増加傾向となっている。このことから和室面積を大きくしているのは、主室であることがわかり、専門分化するのではなく、主室を大きくすることで、多目的な室としていることが考えられる。各面積の平均は、主室が24.3㎡、水屋が2.4㎡、収納が3.4㎡となっている。

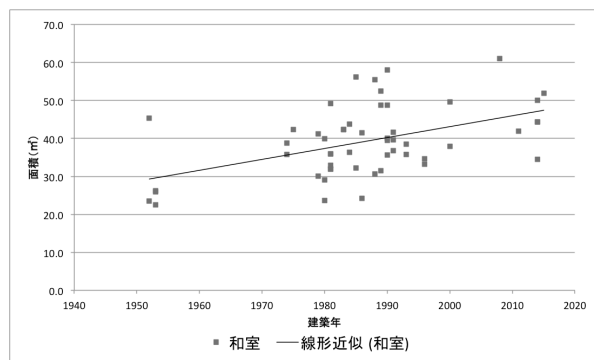


図2 建設年に対する和室面積

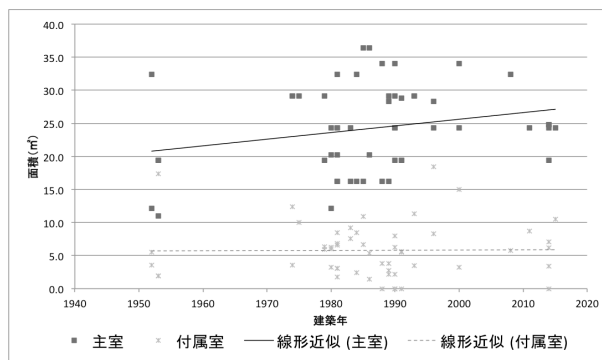


図3 建設年に対する主室と付属室面積

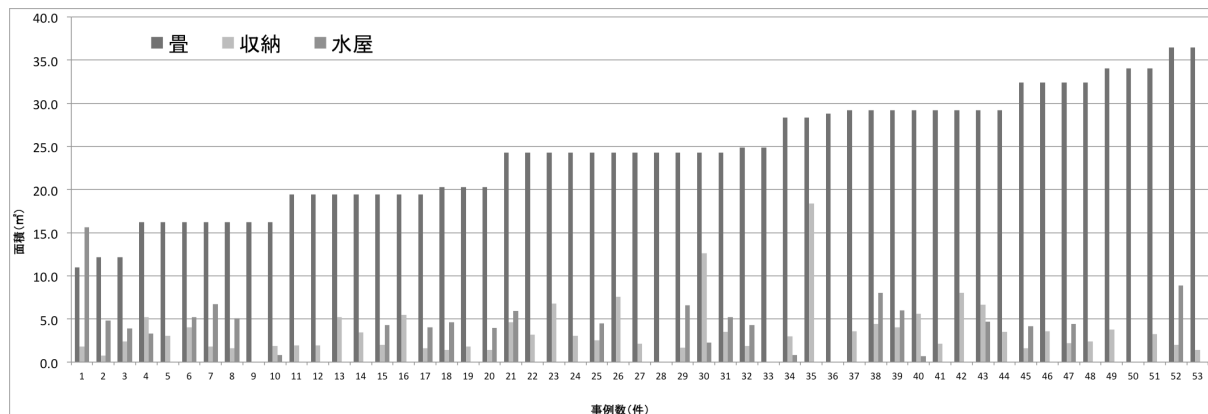


図4 各和室の畳,収納,水屋の面積

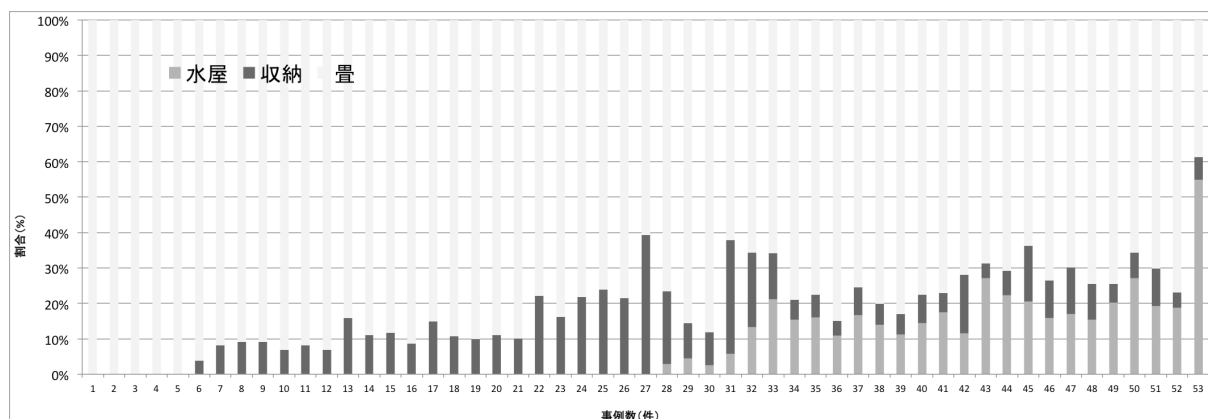


図5 畳,収納,水屋の面積構成比

主室の平均が15畳の定員30名規模というのは、多目的な活動と構成要素によって専門的な活動にも対応できると考えられる。

4.2 主室と付属室の面積構成比

主室、水屋、収納、の規模について図4に示し、図5に面積構成比を示す。各要素の割合平均は主室が78%、収納が13%、水屋が9%となっている。水屋が構成されている和室では、収納の面積は小さいが、水屋が構成されていない和室では収納の構成が大きくなっている。収納が大きいことで、専門分化するのではなく、和室を多目的

な室としていることが考えられる。

5 水屋、収納の配置と床の間の配置タイプ

5.1 水屋、収納の配置タイプ

水屋と収納の出入り口に対する配置と床の間の出入り口に対する配置をありえるパターンで示したものを図6に示す。水屋、収納の各タイプの室数を図7に示す。図7より、水屋と収納の配置タイプで最も多くみられるのがタイプCで46事例中16事例（35%）、つぎがタイプFの46事例中15事例（33%）となっている。入口側に水屋、収納が配置されることが多いため、タイプB,D,Eの事例はみられない。



図6 水屋,収納の配置パターン(左)と床の間の配置パターン(右)

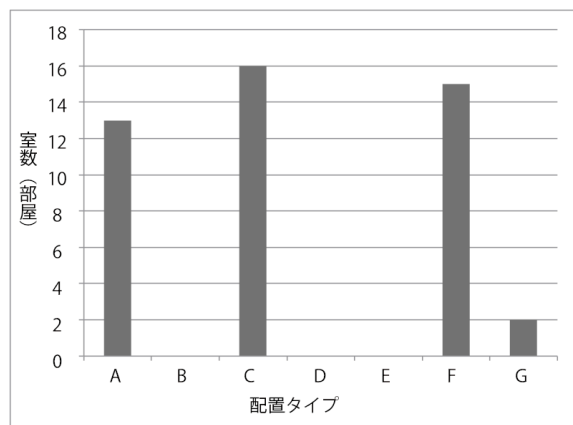


図7 水屋,収納の配置タイプ

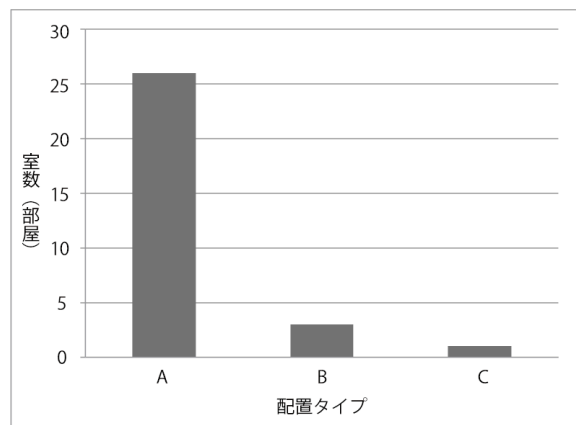


図8 床の間の配置タイプ

5.2 床の間の配置タイプ

床の間の各タイプを図8に示す。図8より,床の間の配置タイプで最も多くみられるのがタイプAの30事例中26事例(87%)となっている。入り口に対して左右に配置されているタイプAは30事例中26事例

(87%) みられ,前後に配置されているタイプCDは30事例中4事例(13%) みられる。

5.3 各配置タイプの分析

和室には続き間や床の間の正面性,和室としての格式があがるといった特性があることから,水屋,収納の配置と床の間には位置関係が強いと考えられるため,複合して分析する。水屋,収納のタイプC,Fと床の間のタイプAというのは,続き間という観点から水屋,収納が入り口側にあることで共有が可能となり,水屋を使用する利用行為が可能となると考えられる。床の間については,正面性ということが要因として大きいと考えられるが,左右どちらかに床の間の配置されることで,続き間とする場合にも床の間を有する和室として使用することが可能といえる。水屋,収納の配置タイプにB,D,Eについてみられないのは,床の間の配置タイプとして,左右に配置されている割合が高いためであると考えられる。床の間の配置タイプとして,前後に配置されている割合が低いのは,正面性と入り口との関係が要因として大きいと考えられる。

6 まとめ

〔和室の構成パターン〕

踏込, 収納, 床の間, 水屋の4つを構成しているパターンが53事例中16事例(30%)と多く,一室型(6事例)と二室連続型(10事例)ともに最も多くみられる。

〔和室の規模と構成比〕

建設年に対する和室面積の増加傾向は主室面積の増加が要因となっている。

〔配置タイプ〕

水屋,収納の配置パターンにおいてタイプB,D,Eについてみられず,二室連続型にみられる室構成との関係が強い。床の間の配置パターンにおいてはタイプAが30事例中26事例(87%)みられることから,床の間に対して横からのアプローチになることが多い。

今後の課題としては,平面図と実際の構成との確認が必要である。平面構成と利用実態による行為との関係性を分析していき,公共の和室の必要性を示していく。

「参考文献」

1. 刈込 慎:和室が示す公民館の施設類型(千葉県における事例研究) 日本大学大学院生産工学研究科 修士論文
2. 安藤 淳一:地域集会施設における「和室」の機能について 日本大学大学院生産工学研究科 修士論文
3. 公民館のデザイン p113~121 日本公民館学会編